

【MedTec Forum】 3回生オリエンテーションから

東野英利子 (人間総合科学研究科 / 臨床医学系)

今年度新入生のクラス担任を仰せつかることもオリエンテーション委員としてその計画実行にあたった。何回か会合を重ねたが、日中はなかなか時間がとれず、他の委員の先生には大変ご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫びします。

第1,2回生のオリエンテーションではバスで太陽村や筑波山に行ったそうであるが、今回はオリエンテーションの本来の意味“学校・会社などの組織で、新入者がそこでの生活・活動に早く適応できるようにはからうこと”を重視して、エンターテインメントよりも実をとったという形で学類棟で行った。

オリエンテーションの企画を練る上で、自分が筑波大学に入学したときにことを思い出していた。そのときは(おそらく予算の関係で)富士山の青年の家のような研修施設に泊まった。そこではベッドメイキングから就寝・起床の時間まで形式が決められた軍隊調のもので、あまりよい印象を持っていない。昨年のような旅館に宿泊しての筑波山登山は個人的には行ってもよかったのであるが、問題は天気である。実は私は強力な雨女であり、新入生には申し訳ないが今回のオリエンテーションも雨の降る寒い日となってしまった。

さて本題。オリエンテーションは2日間にわたって行われた。1日目の午前中は全学の共通スケジュールで、午後から学類棟で行われた。使用した211は超満員で、補助椅子が必要であった。編入生がいるので、1年生だけではないためもあるが、今後共通企画に関しては部屋を考えなければならない。医学専門学群の臨床講堂を使ってもよかったと思う。

オリエンテーションのプログラムは公になっているのでそれを説明することは省き、印象に残った点のみ述べる。松田先生のカリキュラムの説明はカリキュラムが作られた背景、学ぶとは何かという話で、教育者のあるべき姿を

垣間見たような気がする。“自ら”をテーマにした工藤副学長の講演は非常によい話であったが、新入生が彼の実感のこもった話をどれだけ理解し、共感しえたかどうか。人間は常に理想をもって行動するがいつも理想に到達しない。時間の方が早く過ぎてしまう。そんなことを考えさせられた。

私が主に担当したのは懇親の夕べで、唯一のエンターテインメントであった。宴会の幹事は度々行うが、10代の新入生を対象とした会はなかなか司会が難しかった。多くの教官が来てくださり、多分新入生達はほとんど誰も覚えていないと思うが、これだけたくさんの教官が自分たちのためにいる、それが大学というものなのだと感じられたのではと思う。各テーブルに教官を割り当てようかなどといろいろな案はあったが、結局はなるようになるでかなり混雑した印象の会であったが、目的は達せられたように思う。

実は今、自分のクラスのオリエンテーションに関するアンケートの集計を終えたところである。最近はあらゆるところで評価のためにアンケートを行うが、個々人の採点の絶対値(これは多分に性格そのものである)はあまり信用しないようにしている。結構いろいろな性格の学生がいそうだということが感じられ、うまくやっていければよいと思う。新入生のオリエンテーションは担当教官へのオリエンテーションであったとつくづく思う。